

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

チベット語アムド農民方言： 音韻体系と文の基本構造

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2286

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



要旨

チベット語は、ウーツァン方言（中央方言）、カム方言、アムド方言の3つの方言に大きく分類されている。そのうちアムド方言は主に青海省の全域（玉樹チベット族自治州を除く）と甘粛省南部、四川省の一部で話されている。アムド方言の中にも牧民方言と農民方言、半農半牧方言という3つのタイプの下位方言の存在が指摘されている。

その中で、古形式をより保存している古形保存型と見なされる牧民方言が研究者の注目を集めこれまで比較的よく研究されていた。一方、より改新的とみなされる農民方言については、これまで包括的な研究はなかった。本論では筆者自身の母語である青海省海南州同徳県で話されるチベット農民方言の音韻体系と文の基本構造について論述する。

第1章では、音韻体系の全体像とその特徴について分析・記述する。特に、口語音と異なる読書音の存在を指摘し、両者の相違を分析する。また、アムド農民方言の母音体系および子音体系を文語形式と比較し、歴史的変遷についても論究する。

第2章では、格標示と述語構造を中心に文の基本構造を分析・記述する。その際、第1章で設定した音素記述に基づいて同方言の文を記述する。格標示では、名詞・代名詞の主語と目的語の格標示が文のタイプに応じてどのように変化するかを分析・記述する。また、述語構造では、名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文における述部の構造とその中で助動詞が果たす意味役割を詳しく分析する。

第3章では、モダリティ表現、ヴォイスと複文およびその他の文法事象について分析・記述する。モダリティでは、命令、推量、経験、願望、許可、強制、祈願、依頼、勧誘、可能の表現について扱う。ヴォイスでは、使役表現と受動表現について記述する。複文では、条件、逆接、目的、原因の表現の構造を記述する。最後に、アムド農民方言の口語に特徴的な助詞について記述する。

本論の最後には、語彙集を添付する。語彙集は、チベット文語形式、日本語訳、英語訳の3通りの検索が可能のように、3通りの語彙集となっている。

第1章の音韻、第2、3章の文法および語彙集によって、アムド農民方言の全体像を提示するのが本論文の目的である。